

世界で唯一のコンボウアメバチ化石

ガのさなぎから現われる寄生蜂！！

かぶといわそう

兜岩層から見つかった、世界に一つの、コンボウアメバチの化石を紹介します。

どんなハチ？

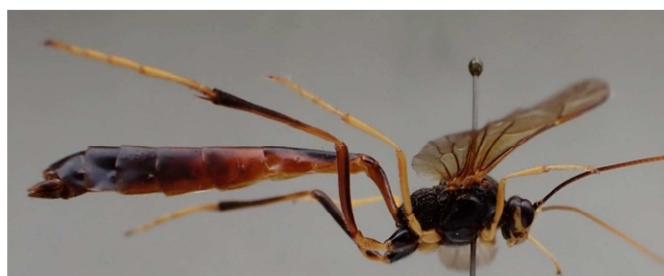
ミツバチやスズメバチとは異なる^{ふう が}風^{すがた}変りな姿のハチ
です。^{こんちゅう}昆虫の幼虫の体内に寄生し、そのさなぎから現れ
^{きき かいかい}る奇々怪々なハチです。



点線で囲った部分に
^{あみめじょう しわ}網目状の皺があるのが
コンボウアメバチの特徴

兜岩層産コンボウアメバチ化石
標本番号 SNM-F-Kb-347 体長約 23.0 mm

コンボウアメバチの仲間はヒメバチ科に含まれる寄生性のハチで、ガや甲虫の幼虫に寄生することが知られています。^{めす}雌バチは昆虫の幼虫の体内に卵を産みます。卵から孵ったハチの幼虫は昆虫の幼虫を食べますが殺しはしません。昆虫がサナギになるとハチの幼虫は急成長して中身を食べてくし、ついには殺してしまいます。このような寄生は捕食寄生と呼ばれています。最後にサナギの殻の中で冬を越し成虫と^{こうきょうぶ}なったハチが出てきます。コンボウアメバチは後胸部を高く上げ、^{しよつかく}触角を伸ばし、^{あし}脚を後ろに突き出す特異な姿でゆっくりと飛びます。



コンボウアメバチの現生種 体長 35 mm前後

作成：下仁田自然学校 田中 敏明